

■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末6月23日の日足終値(NY時間午後5時)時点での判断です。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

■ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

■ユーロドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

また、終値がセンターラインを下回ると、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

そして、今後、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

尚、センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

<<4時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

<<1時間足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

また、終値がセンターラインを上回ると、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

そして、今後、終値が -2σ ラインを下回るまでは、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

尚、センターラインは最初の戻りの目途となるが、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、売り戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが

陰転しないかぎり、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陰転し、終値が -2σ ラインを下回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格下落トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<4時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中。

一方、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途であるセンターラインまで上昇した後に反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、終値が -2σ ラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は戻り売りを優先させたい一方で、終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反騰局面に入ることから、一転して買い戦略が有効となる。

また、終値が -2σ ラインをブレイクするまでは、押し目買い戦略が有効である一方で、終値が同ラインを下回ると、あらためて本格下落トレンド局面入りするため、売り戦略が有効となる。

尚、売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中。

■ポンドドル

<<週足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

また、終値がセンターラインを下回ると、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

そして、今後、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

尚、センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを上回ると+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと-2σラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となる。

<<1時間足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、買い戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、+1σラインから+2σラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陽転し、終値が+2σラインを上回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格上昇トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

尚、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

■ユーロ円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

基調としての上昇トレンド局面。

遅行スパンが陽転しているかぎり、基調としての上昇トレンドと判断。

遅行スパンがローソク足に接近、接触するタイミングは押し目買いチャンスと読む。

基調としての上昇トレンド局面の特徴は、上下に比較的大きな値幅を伴って往来しながらゆっくりと上昇していくところ。そのため、カウンタートレードも効果的となる。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

■豪ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面だが、センターラインが下値サポートとなって反騰のシナリオもあり、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

また、今後、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σラインから+2σラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと判断する。

尚、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

<<1時間足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、買い戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、+1σラインから+2σラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陽転し、終値が+2σラインを上回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格上昇トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

■ポンド円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

<<1時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。
また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。